

岩手県知事 達増 拓也 様

要望書



ひと

秋田

岩手



もの



岩手中部工業団地

令和7年11月20日

東北横断自動車道釜石秋田線

北上JCT 江刺田瀬IC間整備促進期成同盟会
北上金ヶ崎パシフィックルート整備促進期成同盟会

北上金ケ崎パシフィックルートの整備促進について

1 現況

北上・金ケ崎・奥州地域を中心とする県南の当地域は、自動車や半導体関連産業の集積により、安定した雇用を生み出し、地域経済に好循環をもたらしています。

いわて県民計画では「北上川バレープロジェクト」を掲げ、県南地域を含む北上川流域の強みを生かした産業振興・生活環境の更なる充実により働きやすく、暮らしやすい、新時代を切り拓く先行モデルとなるゾーンの創造を目指しております。また、この計画に掲げる「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」では、交通ネットワークや港湾機能などを生かした地域産業の振興を図り、岩手県内と国内外をつなぐ海側の結節点として、三陸地域の持続的な発展を目指しています。

こうした背景のもと、北上南部工業団地、岩手中部工業団地、江刺中核工業団地を有するこの地域には、自動車産業とそれを支える多くの部品工場のほか、食品、製紙会社など、港湾利用が想定される企業が多数進出しており、それに伴い、北東北の中継拠点となる大型物流倉庫の建設が相次いでおります。また、江刺フロンティアパークⅡの完成により、国内の半導体分野を支える関連企業が相次いで立地するなど民間の開発意欲が非常に高まっております。令和4年度からは、県産品の輸出促進のためのコンテナ貨物の国際チャーター便が運航開始されたほか、東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通後における一般国道456号の交通量が約20%増加するなどの交通状況の変化も顕著であり、今後の港湾・物流戦略においては「北上川バレープロジェクト」と「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」をつなぎ、釜石港及び大船渡港など太平洋側との連携体制を強化することが求められます。

2 課題

しかしながら、当地域から江刺田瀬 IC を結ぶ国道456号においては、県道255号との交差点以北の幅員狭小及び急カーブ、旧広瀬小学校前の幅員狭小及び急勾配、北上市口内町地内における幅員狭小及び連続する急カーブなどにより、大型車両の円滑な通行並びに沿線住民の安心安全の支障となっております。また、それぞれの工業団地間の連絡と港湾への物流ルートとして重要な県道108号金ケ崎橋においても、幅員の狭小や急カーブなど、安全で安心な通行に支障となる要因が多く存在しております。さらに、国道456号においては、釜石秋田線全線開通後の交通量が2割程増加し、大型車両の混入率が倍増するな

ど交通の変化が顕著であり、また、北上金ヶ崎 IC を中心に物流の中継拠点となる大型物流倉庫の建設が相次いでいることから、今後更なる交通量の増加が見込まれます。

これらのことから、当地域と沿岸地域を結ぶ円滑な交通環境を確保するための国道456号の改良整備並びに県道108号の新橋整備は急務であり、重要課題であります。

3 整備により期待される効果

- (1) 輸送時の衝撃軽減や交通事故防止による安全輸送が図られる。
- (2) バイパスの新設により約 2.6km、時間にして約 4 分短縮が図られるとともに、沿線住民の交通事故防止に繋がる。
- (3) 物流拠点間のアクセス向上により取引の拡大が見込まれる。
- (4) 通勤圏拡大による人材確保、従業員の通勤負担の軽減が図られる。

4 要望

令和5年1月に2市1町で設立した当同盟会ですが、現在は4市1町、97の民間企業・団体等が加盟し、当該ルートの整備に大きな期待を寄せております。

以上のことから、物流を支える産業道路としての機能強化を図るとともに、地域住民の安全・安心の確保のため、次の事項について強く要望します。

- (1) 県道255号から国道456号を経由し国道107号に至るルートにおける交通状況の変化を的確に把握し、幅員狭小区間の拡幅整備及び急カーブの緩和並びに所要時間短縮のためのバイパスを整備すること。
- (2) 新金ヶ崎大橋の新設による当地域と港湾を結ぶ大型トラックの円滑な通行環境を確保すること。

令和7年11月20日

岩手県北上市上江釣子 17 地割 201 番地 2

北上金ヶ崎パシフィックルート整備促進期成同盟会

会長 北上市長 八重樫 浩 文

